

【2025 年度事業方針】

- ① パラリンピックでの日本代表（火ノ玉 JAPAN）の活動を通して、子供たちに夢と希望を与え、日本国民に感動を与えること
- ② 障害有り無しにかかわらず一緒に参加できるスポーツとして、「ボッチャで日本社会の垣根をなくし」共生社会の形成・多様性の尊重推進に寄与すること
- ③ 新規競技者登録の増加、登録の継続、支える環境のサポート・拡充に注力することで、ボッチャプレイヤー・ボッチャファミリーの拡大を目指す
- ④ 加盟団体化を開始し、中央競技団体として全国の都道府県協会と協働し国内のボッチャの基盤強化を図る
- ⑤ World Boccia 加盟国として、日本国内での国際大会の開催を視野に、国際連盟との関係を強化し、実施可能な組織体制を検討する

（1）重点実施事項

●強化本部

- ・日本代表（火ノ玉 JAPAN）アジアオセアニア大会でのメダルの獲得と世界選手権出場権獲得に向けたワールドランキングポイントの獲得
- ・強化本部における予算実施計画通りの遂行
- ・LA28 に向けた出場権獲得のための新強化体制の基盤構築
- ・ボッチャ選抜甲子園大会、地域連携事業、B チャレンジと連携した次世代の日本代表となりうる選手の発掘と育成

<日本代表関連>

2024 年パリパラリンピックを終え、体制のアップデートを含めた強化方針をより深く浸透させる。専任の体制を 4 名とし、コーチ・スタッフが連携して策定する中長期的な選手育成・強化プログラムの強化プランを構築し、国内の重度障がい者、若い可能性のある選手のスポーツ環境の実態を把握し、より地域での選手発掘・育成を強固にする。

（1）火ノ玉 JAPAN

- ・全国規模での若手の選手発掘・育成
- ・女子選手の発掘推進（BC1,BC2,BC4）持続可能な環境の整備

（2）育成選手

- ・全国規模で地域協会と連動した若手の選手発掘・育成
- ・アンダーカテゴリーの指導者育成への注力、国際大会出場による選手の経験値向上
- ・育成世代の課題を広く周知し、課題解決へのアクションを検討
- ・将来の代表およびトップレベル選手の土台構築のため、競技志向、レクリエーション志向の 2 軸での長期的視野に基づいた育成方針の検討

●普及振興部

- ・日本代表火ノ玉 JAPAN の機運醸成
- ・ファーストスポーツ/生涯スポーツとしてのボッチャ導入環境の醸成
- ・地域の環境をささえる、審判・TO・指導者の人材確保・育成
- ・PF（都道府県協会）運営補助体制の構築

●ルール審判部

- ・よりわかりやすく、より多くのひとへ
- ・国際連盟との連携強化
- ・事業及び業務のスクラップ&ビルドの実施

●事務局

- ・NF 団体向けスポーツガバナンスコードの対応
- ・適合性審査に向けた対応
- ・ボッチャファミリー拡大、業務改善につながる会員登録システムの活用
- ・競技環境に付随する社会課題解決への貢献
- ・コンプライアンス・誹謗中傷の対応体制の構築
- ・BOCCIA カレンダー調整と整備

(2) 主要事業

1, 大会事業（別紙）

- ・グランプリシーズ、グランプリファイナル新設大会のマーケティングとプレ大会の成功
 - ・第10回全国ボッチャ選抜甲子園大会における支援学校・支援学級の実態の把握と参加者拡大に向けた部活動地域展開への体制の準備
 - ・既存大会（日本ボッチャ選手権大会（予選会含む）、オープンチャンピオンシップ、JAPAN CUP の価値向上、安定的な競技大会の実施
 - ・大会運営委員会を設置し、スムーズな競技運営進行を行う
- ① 主催大会における効率的な大会運営の追求と円滑な大会運営の遂行
 - ② 各ステークホルダーと連携した露出拡大および大会方式の検討
 - ③ 全国ボッチャ選抜甲子園大会予選会 競技方法の検討
 - ④ 協賛社・地域協会・理学療法士協会 と連携し革新的な大会運営の実施
 - ⑤ 効果的な広報プロモーション計画の策定
 - ⑥ 主催大会の戦略的・安定的なベニュー確保
 - ⑦ 大会運営委員会の機能充実と各種大会の管理体制の整備
 - ⑧ JBoA 以外の地域協会が主管する JAPAN CUP 予選会の連携の強化
 - ⑨ JPSA が主催する全国障害者スポーツ大会の開催成功に向けた運営連携の強化

2, 加盟団体組織化事業

- ・加盟団体会議（方針説明会の実施）
- ・加盟化に向けての体制の整備

3, 地域連携事業

- ・自治体連携協定事業（世田谷区、渋谷区、武蔵野市、白河市、大館市、福島市）
自治体と連携し、ポッチャがある街づくりを行う
- ・連携協定大学（順天堂大学、杏林大学、日本福祉大学、大阪公立大学）
関係大学（中京大学、大阪体育大学）との連携により持続的な人材育成と効果的な選手育成につながる調査研究を行う
- ・発掘、指導者・選手育成を目的とした連携事業
パラリンピック選手の発掘と育成・指導者の育成を地域で行う
全国4ブロックに拠点を構築する（東京、福岡、福島、岡山等）

4, 人材育成事業

- ・B チャレンジ
全国7ブロックで選手発掘、資格取得者育成を行う
- ・各講習会（サポーター・審判）

5, マーケティング事業

- 社会的意義と実利の両立を目指し、普及活動と連動した事業展開を行う
- ・インクルーシブ社会、多様性の推進など、社会的意義の可視化
 - ・企業メリットの明確化（SDGs、CSR、ブランド価値向上、社内活用など）
 - ・「支援される側」から、「共に価値を創る側」への共創パートナーの確立

（3）関連組織との連携

- ① JSC、JPC、JPSA、パラリンピックサポートセンター、協力団体(日本卓球協会)等との連携強化
- ② PF との会議を通じた組織基盤の強化
- ③ 外部人材を活用した事務業務の強化
- ④ 2026年以降のブロック協会およびブロック事業におけるPFとの連絡体制の強化
- ⑤ 競技者人口拡大に向けたPF地域環境の現状把握と構築
- ⑥ 登録制度の未認知に対する対応
- ⑦ 登録推進に向けた運用体制の検討
- ⑧ 団体ガバナンスコートのPFへの指導と対応
- ⑨ 誹謗中傷に対する外部団体への相談

（4）事務局の体制構築

- ① 各部、委員会間と事務局の連携強化、人材交流の促進

② 事務局人材の育成とコンプライアンスの強化

(5) 「中長期計画」の進捗管理と「2030年JBoA15」に向けたビジョンの再策定

- ① 2030年目標達成に向けた取り組みの検討
- ② 目標達成に向けた横断的かつ包括的な、管理・サポート体制の構築のために経営戦略グループの構築を検討する
- ③ 「2030年JBoA15」～「2040年JBoA25」に向けたビジョン策定

(5) 社会課題解決への貢献

- ① 地域と連携し、実施環境の整備
- ② スポーツ参加の環境整備のための移動支援の構築
- ③ 部活動地域展開に向けたPF、総合型、地域クラブのモデルケースの構築

(6) 国際関連

1, World Boccia との連携強化

- ① アジアパラリンピック開催に向けた連携強化
- ② 会議等による情報収集・意見交換等

2, 日本代表チーム支援

- ① LAパラリンピックに向けた世界強豪国との強化試合の検討

3, 他国NF との連携強化

- ① パートナーシップ提携国（タイ・その他）の新設の検討
- ② 面会、会議等による交流の推進
- ③ LOC との連携およびノウハウ共有

(7) 育成関連

1, 発掘育成システムの確立。パスウェイに基づいた発掘育成の全国的な展開を実施

- ① 全国選抜ボッチャ甲子園大会と連動した東京マラソン財団「たまご育てプロジェクト」での訪問型育成指導
- ② J-STAR 発掘選手への地域練習会の実施
- ③ 地域連携事業で、発掘～育成～サポートが可能な拠点の構築

(8) 指導者関連

1, コーチ登録者数拡大に向けた施策

- ① 人材育成事業Bチャレンジでの指導育成
- ② 選手発掘育成と連動した育成
- ③ 都道府県指導者の現状把握と基盤整備

- 2, コーチライセンス制度の周知と質の向上
 - ① コーチ養成講習会実施に向けた講習プログラムの検討
 - ② コーチデベロッパーの質の向上と人員確保に向けた取り組み
 - ③ コーチライセンス別の適正な基準評価の構築
- 3, 指導現場におけるインテグリティの確保
 - ① 教育プログラムの実施・運営
 - ② 教育プログラム研修内容の充実
- 4, コーチングやスキル・戦術など多岐にわたる情報の発信・共有
 - ① コーチのコミュニティの形成
 - ② 専任スタッフと強化スタッフの情報の共有
 - ③ コーチの指導場所の確保
 - ④ 全国代表者会議におけるコーチカンファレンス（総会）の実施提案

(9) 審判関連

- 1, よりわかりやすくより多くのひとへ
 - ① フレンドリーマッチ版の般化、展開
 - ② 簡易版規則による審判講習会の拡充（普及振興部との連携）
 - ③ ボッチャの普及と大会増加への対応
- 2, 国際連盟との連携強化
 - ① LA シーズン国際規則の迅速な日本規則への落とし込み
 - ② LA2028 大会への審判員輩出を視野に入れた審判員スキルの向上
- 3, 事業及び業務のスクラップ&ビルドの実施
 - ① 中長期ビジョン実現のための組織再編
 - ② ボランティア業務の軽減を図り、委員会メンバーのスキル向上を図る

(10) 広報・プロモーション関連

- 1, ボッチャの露出強化
 - ① 日本代表の価値向上・露出拡大に努める
 - ② 日本選手権、JAPANCUP、グランプリシリーズをはじめとする JBoA 主催大会の価値向上に努める
 - ③ 地域での競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化を行う
- 2, ボッチャの普及振興・競技者登録の推進に寄与する広報活動
 - ① 全国の『する』『みる』『ささえる』『携わる』方々に対する速やかかつ適切な情報の公開・伝達、および満足度向上を図る
 - ② 過去大会の記録等、情報のコンテンツ化を促進する

(11) 倫理コンプライアンス関連

- ① 暴力行為等通報窓口の適正な運営体制の構築
- ② 暴力・暴言・ハラスメント行為等の未然防止と適正な懲罰
予防⇒インテグリティ研修を実施し、暴力・暴言・ハラスメント行為等の抑止につながる各種施策を各部と連携して実施し、意識の啓発・醸成を図る
- ③ より効力のある関連規程類の整備

(12) 国際大会関連

- ① 国内での国際大会の開催に向け、ステークホルダーの開拓、安心安全でかつ地域振興に資する大会が実施できる開催地の選定を行う
- ② 国際大会の開催によりボッチャの価値向上に向けた取り組みが可能かを検討する
- ③ 協賛料収入や入場料収入など計画を作成する